

相互理解が医療和平の鍵

AMDAが海外活動報告

国際医療NGO「AMDA」は1日、スリランカ、インドネシアなどで活動する担当者の一時期帰国に合わせ、岡山市内で活動報告会を開いた。

20年にわたり内戦の続いたスリランカでは、03年に医療和平事業を開始。タミル人、シンハラ人、ムスリムいずれの民族、宗教にも偏らないよ



スリランカでの医療和平事業について報告するニティアン・ヴィーラヴァグさん（左）＝岡山市榑津で

ろ、各勢力が集まる3地域を拠点に巡回診療や健康教育をしてきた。04年12月のスマトラ沖大地震後、津波後は、緊急医療支援や心のケアにも取り組み、今年6月の事業終了後も、地域の健康ボランティアらが事業を継続していくという。

現地事業副統括のニティアン・ヴィーラヴァグ

さんは「異なる文化に偏見のない若者に働きかけ、相互理解を図ることが、医療和平成功の鍵となる」と強調した。

津波の緊急支援で始まったインドネシア・アチエの活動については、現地事業統括の金山夏子さんが復興支援、医療和平と展開してきた事業を紹介。30年に及ぶ紛争後の平和構築のため、「巡回診療を土台に、訓練を受けた現地スタッフによる

イスラム音楽や舞踊を活用したセラピーで、トラウマのケアをしていく」などと話した。